

詳細設計

1. システム概要

CSV ファイルを Excel ワークブックの特定のシートにインポートし、データのフォーマット調整やエラー管理を自動化することで、効率化を図るものです。

2. コード構造

主要モジュール構成

ファイル選択 : GetFilePath()

データクリア : ClearWorksheet(ws As Worksheet)

データインポート : ImportCSV(filePath As String, ws As Worksheet)

フォーマット適用 : ApplyFormatting(ws As Worksheet)

エラー処理 : HandleError(err As Object)

3. 機能一覧

機能名	機能詳細
CSV ファイルの選択	ファイルダイアログを使用して CSV ファイルを選択可能 選択されたファイルパスを取得
ワークシートのクリア	データインポート前に既存のデータを削除
CSV データのインポート	テキスト形式で CSV ファイルをインポート デリミタはカンマ (,) 全列を文字列としてインポート
データフォーマット調整	列幅の統一 (A 列は幅 8、その他の列は幅 17) データの中央揃え (列 A~D) 1 行目 (ヘッダー行) のセル背景色を設定 (RGB:189, 215, 238) シート全体のフォントを太字に設定
エラー管理	CSV ファイルが選択されなかった場合の警告 インポート中に発生したエラーの通知
データビューの調整	1 行目のフィルター追加

テスト表

テストケース番号	テスト項目	テスト内容	期待結果	実行結果
TC01	CSV ファイル選択ダイアログが表示される	マクロを実行する。	ファイル選択ダイアログが表示される。	合格
TC02	正しい CSV ファイルがインポートされる	有効な CSV ファイルを選択する。	ファイルの内容がシートにインポートされる。	合格
TC03	インポート前にシートがクリアされる	シートに既存データがある状態でマクロを実行する。	シートの既存データがクリアされ、新しいデータがインポートされる。	合格
TC04	エラーハンドリング (ファイル未選択)	ダイアログで「キャンセル」を選択する。	"CSV ファイルが選択されませんでした"のメッセージが表示	合格

テスト実施方法について

各項目について、テストを順番に実行します / 手動での入力を行い、期待される結果が表示されるか確認します。

可能な限り異なる入力パターンを使用して、システムの安定性を確認します。